

国内経済要録

担保の種類及び担保価格の改正

本行貸出の担保につき正常化を図るため、担保の種類を以下の通り定めるとともに、これが取扱を一層慎重且つ適切ならしめ、また債券類については社債売買市場の発達に応じ市中相場を担保品時価の基準とするなどの改訂を行い、8月6日より実施することとなった。

手形貸付担保の種類

- 国債、政府短期証券、公社債券、政府保証付社債、金融債、適格地方債、適格社債。
- 再割引適格商業手形、輸出前貸手形、輸入決済手形、輸入運賃手形、農業手形。
- 爾余のものについては必要に応じ担保とし得る扱とする。

社債等発行条件の自由化

起債懇談会は、7月11日、個々の社債等の発行条件を、当分の間それぞれの起債関係者間で適宜決定し得ることとし、即日実施した。この措置は最近の社債等の発行、消化状況に鑑み、現行の発行条件が実情に適しないことが明らかになったので、今後の起債促進を図る一方、起債条件決定の本来の姿に一步近づけるため採られたものである。

外国為替資金特別会計に対する英磅売戻し

外国為替資金特別会計の英磅は、5月以降英磅建輸入の増加、外債元利払、日独オープン勘定残高処理、邦銀ユーザンス増加に伴う邦銀の同会計からの英磅買入増加などにより著減し、今後も引き続き相当の減少が見込まれているが、一方L・U・A廃止後の外国銀行に対する思惑もあつて、これら外銀への大蔵大臣名義勘定残高は、当分の間現状程度を維持する必要があるなどの事情から、同会計の英磅資金繰り逼迫は何らかし打開を要する段階にたあつた。

本行ではこのような事情に鑑み、大蔵省の申し出に応じて、大蔵大臣との間に5百万磅を限度とし、等額の米拂を対価とする英磅売戻しを実行することとなり、7月10日両者間に本取引に関する取極めが行われた。

閣僚審議会、本年度外貨収支の見通しを改訂

政府は、8月3日閣僚審議会に於て、昭和31年度の外貨収支見通しを別表の通り改訂した。当初見通しと比較しつつ、今回の改訂見通しについてその主要点を挙げれば次の通り。

まず輸出は、鉄鋼、非鉄など内需増大により輸出余力の減退が予想されるもののある反面、船舶、化繊をはじめ、海外景況の好調持続を背景に更に輸出伸張を見込み得る品目が多く、輸出総額はやや手堅く見積つても年度間23～

23.5億ドル程度が見込まれることとなつた。また特需はI・C・A買付けの好調により、また貿易外受取も海上運賃の上昇で、いずれも当初見通しより1割内外の増加が見込まれている。この結果受取規模見込は、当初の28.9億ドルより30.5～31.4億ドルと拡大されることとなつた。

一方輸入見込は、当初の24億ドルより26～27.5億ドルへ大幅に増加された。これは今春來の鉄鋼、繊維などいわゆる工業用原材料の著しい輸入増勢に鑑みたもので、生産規模の拡大を反映したものにはほかならない。また貿易外支払も海上運賃の上昇に伴い増加し、結局支払規模全体としては当初の22.8億ドルより30.5～32.5億ドルへと著増が見込まれている。

以上のような受払見通しの結果、実質収支尻はトントン乃至110百万ドルの赤字となることが予想されているが、表面収支尻は余剰農産物、外銀ユーザンスなどによる支払繰延があるため6～116百万ドルの黒字見込となつた。

31年度国際収支見通し

(単位 百万弗)

区 分	30年度実績	当 初 見 込	改 訂 見 込
受 取			
輸 出	2,095	2,200	2,300~ 2,350
特 需	569	500	540~560
貿 易 外	175	192	210~230
計	2,839	2,892	3,050~ 3,140
支 払			
実質輸入	2,168	2,400	2,600~ 2,750
(輸入支払)	(2,071)	(2,309)	(2,484~ 2,634)
貿 易 外	348	379	450~500
計	2,516	2,779	3,050~ 3,250
差引実質収支尻	十 323	十 113	0~△110
表面収支尻	十 420	十 204	十 6~116
支 払 繰 延	十 97	十 91	十 116
余剰農産物	十 75	十 66	十 66
そ の 他	十 22	十 25	十 50